

健康な教会の2つ目の印(マーク)：福音の教理

聖書を開いて、テトスへの手紙2章1節から15節をご覧ください。本日は、「健全な教会の9つのしるし」を扱うシリーズの第2回目のメッセージとなります（このシリーズは毎月ではありませんが、時折取り上げています）。これらの原則は、今回も『健全な教会とは何か』(What Is a Healthy Church) という書籍に基づいています。この本は教会にもありますし、日本語にも翻訳されたものがございます。このメッセージの目的は、神の御言葉に示されたご性質を、より豊かに表していく教会となることです。最初の説教で触れたように、他の7つのしるしの土台となる2つの中心的な原則があります。1つ目は、講解説教です。そして2つ目、今回扱う健全な教会の中心的なしるしは、「福音の教理」です。このしるしが何を意味するのかを理解するために、今回も聖書の一つの箇所に向けます。本日はテトスへの手紙2章1節から15節を見て、福音の教理がなぜ地域教会の健全さにとって最も重要であるのか、その理由を学びます。

テトスへの手紙第2章は、1節のこの言葉から始まります。「**しかし、あなたは健全な教えにふさわしいことを語りなさい。**」テトスは、パウロが指導していた若い牧師でした。テトスはパウロとともにクレタ島に赴き、パウロはそこで始まったばかりの教会を導くために、彼をその地に残しました。新しい信者たちはバプテスマを受け、宣教の現場でよく見られるように、やがて一つ、あるいは複数の教会を形成していきました。テトスへの手紙の第1章では、パウロは教会の長老に求められる資質について述べています。そして、それがなぜ重要なのかについても語っています。というのも、教会の歴史のごく初期の段階にあっても、新しい信者を惑わす偽りの教えがすでに存在していたからです。そこで第2章は、こうした偽りの教えから教会をどのように守るのかを示す言葉から始まります。パウロはこの若い教会の健全さを案じており、**その健全さを守るための最初の手立てが、健全な教え、教理を教えることなのです。**パウロがこの教会を守るためにまず最初に挙げているのは、正しい教理を教えることのできるふさわしい指導者を選ぶことです。教理とは教会の教えのことであり、聖書に示されている神について私たちが信じるすべて、また聖書から導き出される神やこの世界に関する教えを指します。福音の中心はすでに宣べ伝えられ、人々はそれを信じていますが、福音を信じてバプテスマを受けることはキリストとの歩みの始まりにすぎません。福音は私たちの生き方全体に関わるものであり、福音の教えは救いで終わるものではないのです。そのためパウロは、この教会を牧会する上での明確な指針として、テトスに「健全な教え」を中心に語るよう命じています。この「健全な教え」はテトス書1章に出てくる偽りの教えと明確に対比されており、この場合、その偽りの教えの内容についても私たちはある程度知ることができます。テトスへの手紙1章10節から11節は次のように述べています。**10 実は、反抗的な者、無益な話をする者、人を惑わす者が多くいます。特に、割礼を受けている人々の中に多くいます。11 そのような者たちの口は封じなければなりません。彼らは、恥ずべき利益を得るために、教えてはならないことを教え、いくつかの家庭をことごとく破壊しています。**偽りの教えの少なくとも一部は、いわゆるユダヤ主義者たちによるものでした。これは、ヘブル人への手紙にも見られるのと同じ種類の誤った教えです。彼らは、キリスト者になるためには旧約の律法を守らなければならないと教えていました。このことは、誤った教えが、時には聖書を用いて語る人々からさえもたらされうるということを、改めて示しています。

しかし、福音の教理が何であるかを具体的に説明する前に、パウロはまず、それがなぜ私たちの生活にとって重要なのかを示しています。教理についての議論は退屈で実践的ではないと考えるクリスチャンも少なくありません。しかし実際には、教理の教えこそが、私たちが何を信じるかだけでなく、どのように生きるかをも決定づけるのです。教会の一人ひとは、福音の教えを日々の歩みの中で実践していきます。そのことが2節から10節にかけて説明されていますので、それらの節を見てください。**2 年配の男の人には、自分を制し、品位を保ち、慎み深く、信仰と愛と忍耐において健全であるように。3 同じように、年配の女の人には、神に仕えている者にふさわしくふるまい、人を中傷せ**

ず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。4 そうすれば、彼女たちは若い女の
人に、夫を愛し、子どもを愛し、5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で、自分の夫に従順である
ように諭すことができます。神のことばが悪く言われることのないようにするためです。6 同じよう
に、若い人には、あらゆる点で思慮深くあるように勧めなさい。7 また、あなた自身、良いわざの模
範となりなさい。人を教えることにおいて偽りがなく、品位を保ち、8 非難する余地がない健全なこ
とばを用いなさい。そうすれば、敵対する者も、私たちについて何も悪いことが言えずに、恥じ入る
ことになるでしょう。9 奴隷には、あらゆる点で自分の主人に従って、喜ばれる者となるようにし、
口答えせず、10 盗んだりせず、いつも善良で信頼できることを示すように勧めなさい。それは、彼ら
があらゆる点で、私たちの救い主である神の教えを飾るようになるためです。パウロは、私たちが何
を教え、何を守るべきかという具体的な教理を示す前に、まずそれがなぜ重要なかを語っていま
す。この箇所全体がそうであるように、この部分もテトス書 1 章の最後の節、16 節とつながっていま
す。16 彼らは、神を知っていると公言しますが、行いでは否定しています。彼らは忌まわしく、不従
順で、どんな良いわざにも不適格です。これは、偽りの教理を教え、それを信じている人々につい
ての描写であることを覚えておいてください。彼らの信じていることは、その生き方に表れているので
す。最終的に彼らは、「どんな良いわざにも不適格」な者とされているのです。

しかし、真の福音の教理はまったく異なる結果をもたらします。教会のあらゆる人々において、真理
への献身は、キリストに似た生き方として現れていきます。ここで、それぞれの人々がどのような働
きや生き方をしているのかを、簡単にまとめてみましょう。年配の男性は、落ち着きと思慮深さをも
って歩み、その姿にキリストへの信仰が表れています。そして、自己中心的になるのではなく、教会
の他の人々に対する愛と献身、すなわち忍耐強さをもって歩みます。福音の教理は、年配の女性たち
に働きかけ、彼女たちを「神に仕えている者にふさわしくふるま」う者とします。これは、聖なる者
としてふさわしいふるまいをもって生きる、という意味です。年配の女性たちについて、パウロは三
節にわたってその行いを語っており、それは初代教会において彼女たちの役割がいかに重要であつた
かを示しています。みなさんの中にも、夫がクリスチャンでない中であっても、息子や娘を信仰深い
男性、女性へと育てておられる方が多くいます。また、キリストに従う歩みへと導いてくれた敬虔な
祖母の姿を思い起こす方も多くでしょう。私自身も、幼い頃、早朝の台所のテーブルで聖書を開き、
祈りとみことばに向き合っていた母の姿に大きな影響を受けました。家庭をよく治め、夫と子どもた
ちをよく愛している妻であり母である方は、自分が家族に貢献していないなどと決して感じる必要は
ありません。牧師としての私の働きも、家庭におけるベスの愛と支えなしには成り立ちません。そし
て、女性一人ひとりにそれぞれ異なる役割や責任がありますが、家庭にあっても、また夫に従うこと
においても、仕事に就いている場合と同じように、神があなたに与えておられる人生の目的を果たし
ているのです。もちろん、職場や教会においても、さまざまな役割が与えられていますが、神は家庭
において、夫とは異なる、あなたに固有の役割を与えておられます。教会においては、年配の女性が
若い女性たちに教え、信仰の成長を助けることが期待されています。もちろん、長老たちは教会全体
を教える責任を担っていますが、霊的に成熟した年配の女性たちは、他の女性たちを教えるうえで特
別な役割を担っているのです。

続いてパウロは若い男性たちについて語りますが、6 節を見るとテトス自身もこの中に含まれている
ようです。「若い人には、あらゆる点で思慮深くあるように勧めなさい。7 また、あなた自身、良いわ
ざの模範となりなさい。」とあります。そして後半では、彼らの教えについて語っており、7 節の終わ
りから 8 節にかけては、聖書を教えることを指していると考えられます。「人を教えることにおいて偽
りがなく、品位を保ち、8 非難する余地がない健全なことばを用いなさい。」教会の中には、奉仕に携
わる若い男性であっても、傲慢で、みことばの奉仕にふさわしい威厳を示していない人が少なくあり
ません。語り方や言葉の選び方に自制が欠けているために、その生き方自体が非難の対象となり、福

音のゆえではなく、不適切な言葉遣いのゆえに敵対者から攻撃されてしまうことがあります。だからこそ、若い男性には自制することが強く求められているのです。しかしパウロはさらに踏み込みます。では、置かれている状況が困難であったり、理想的でなかったり、望まないものである人々はどうでしょうか。そのような人々として最後に語られるのが、「**奴隷**」と呼ばれる人たちです。ここで使われている英語の言葉は本来「**奴隷**」を意味しますが、英語ではアメリカやヨーロッパにおける奴隷制度のイメージが強いため、必ずしもそのまま訳されないことがあります。ローマ帝国における奴隷制度は、歴史上の他の形態ほど苛酷ではなかった面もありますが、それでも特別な条件を除いてはそこから自由に離れることのできない立場であったことに変わりはありません。主人が必ずしも自分の益を考えているとは限らない中で、仕え、従う責任を負っていたのです。それでもなお、彼らは**主人に従って、喜ばれる者となるようにし、口答えしない**ことが求められていました。また、主人のものを盗んだりごまかしたりしないようにも命じられています。このように、どれほど困難な働きの状況にあっても、福音の教えは私たちの生き方に具体的な違いをもたらすのです。

しかし、福音の教理がどのように私たちの生き方を変えるかという具体的な描写を超えて、なぜこれが重要なのかにも目を向ける必要があります。最終的な目的は、単に生き方が変わるのではなく、福音そのものが広がっていくことにあります。2節から10節にかけて現れる三つの目的の表現に注目してください。なぜ年配の男性や女性のふるまいが重要なのでしょうか。5節には、「**神のことばが悪く言われることのないようにするためです**」と記されています。また、なぜ若い男性のふるまいが重要なのでしょうか。8節には、「**敵対する者も、私たちについて何も悪いことが言え**」ないようにするためとあります。さらに、なぜ奴隷たちの生き方が重要なのでしょうか。10節には、「**彼らがあらゆる点で、私たちの救い主である神の教えを飾るようになるため**」とあります。私たちの生き方は、福音が受け入れられるきっかけとなりますし、神のことばが良いものとして受け止められることにもつながります。興味深いことに、日本においても、福音そのものを信じてはいなくても、聖書のメッセージには共感し、キリスト教に対して敬意を抱く人々の例をいくつも耳にしたことがあります。それは聖書そのものだけでなく、私たちクリスチャン自身にも当てはまります。人々が私たちの生き方に敬意を抱くとき、私たちの語ることに耳を傾ける機会が与えられるのです。彼らは私たちについて悪く言うことができなくなります。そして最後に、福音そのものが美しく映るようになります。イエスが罪ある人間のために死に、創造主である神との関係を回復して下さったというこのメッセージは、それ自体すでにこの世で最も美しいものですが、私たちの生き方は、その美しさへと人々を引き寄せ寄せるのです。私たちの生き方は、周りの世界とは異なる何かがあると人々に感じさせ、「その違いは何なのか知りたい」と思わせるものになっているのでしょうか。それこそが、私たちが分かち合いたい「**私たちの救い主である神の福音の教理**」なのです。

そして、このメッセージがどのように私たちの生き方を変えるのかを語ったあとで、使徒パウロは改めて、そのメッセージそのものが何であるかをテトスに思い起こさせます。**これこそが、教会が守り、また宣べ伝える福音の教理です**。11節から14節を見てください。**11 実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。12 その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。14 キリストは、私たちがすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。**『健全な教会とは何か？(What Is a Healthy Church?)』の中で、マーク・ディヴァー (Mark Dever) は、聖書全体に展開される福音の教理の中心を成す、神についての五つの真理 (教理) を示しています。これらの真理は、聖書が教えるすべての土台となるものであり、私たちが礼拝する神がどのようなお方であるか、そして私たちが宣べ伝えるメッセージが何であるかを定めるものです。そしてテトスへのこれらのことばの中にも、その五つす

べてを見ることができるとのことです。第一に、聖書の神は創造主です。創世記 1 章 1 節の冒頭「はじめに、神が天と地を創造された」とあるように、聖書は神がすべての源であることを宣言しています。テトスへの手紙においても、このことは神が救いの源であることを意味しています。「**すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです**」とあるとおりです。私たちは自分自身を救うことができませんでしたが、創造主である神ご自身が、罪人を救い出し、ご自分との関係を回復する道を備えてくださったのです。第二に、聖書の神は聖なるお方です。そもそも、なぜ私たちは救いを必要とするのでしょうか。それは、神が完全に聖なるお方であるのに対し、人間はアダムにあって神に背き、今もなお罪の中にあるからです。ローマ人への手紙 3 章 23 節に、「**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず**」と述べられているように、です。何が正しいかを定めるのは神であり、その神に逆らうとき、私たちは罪を犯すのです。だからこそ、「**不敬虔とこの世の欲を捨て**」させる恵みが必要なのです。その恵みによって、罪人である私たちが聖なる神の前に清められるのです。第三に、聖書の神は誠実なお方です。私たちは創造主に対して不誠実でしたが、神はご自分が造られた人々に対して変わらず誠実であり続けられました。創世記以来、神は数々の約束と契約を与え、ご自分が罪人を贖うことを宣言してこられました。そしてキリストにおいて、神はそのすべての約束を成就されました。「**キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し…てきよめるため、私たちのためにご自分を献げられた**」のです。神の誠実さは、イエス・キリストにおいて完全に示されています。第四に、聖書の神は愛に満ちたお方です。テトスへの手紙には、「**祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように**」とあります。私たちは救われるに値する者ではありませんでしたが、神はキリストを通して恵みを豊かに注ぎ、この世においても来たるべき世においても希望を与えてくださいました。この恵みこそ、罪人に対する神の愛なのです。第五に、聖書の神は主権者です。神はご自身の力とご計画によって救いを成し遂げられました。キリストは「**良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため**」来られたのです。これを成し遂げたのは神であって、私たちではありません。私たちはその恵みを受ける者であり、今や変えられた生き方をもって、2 節から 10 節に示されているように、福音の力を表して生きていくことができるのです。

創造主であり、聖なるお方であり、誠実で、愛に満ち、主権を持っておられる神——そのすべてがイエス・キリストにおいて一つに結び合わされています。聖なる神が、なおあなたを深く愛し、ご自身の主権的な選びによってあなたを救い、新しい命を与えてくださったのです。神は御子イエス・キリストを遣わし、あなたの代わりに十字架で死なせ、あなたの罪とその罰をキリストにすべて背負わせることによって、あなたを救われました。古い罪は赦され、新しい命が始まります。そして今、あなたは創造主である神との個人的な関係の中に生きるのです——今も、そして永遠に。これこそが、健全な教会が語り続ける福音の教理です。私たちはこのメッセージを恐れず、ためらうことなく、言葉と生き方の両方を通して大胆に語ります。それによって、人々はこの真理に気づき、向き合うように促されるのです。ですから 15 節は、1 節が始まったところへと、再び戻ってくるのです。「**しかし、あなたは健全な教えにふさわしいことを語りなさい。**」パウロはここでテトスに対して、健全な教えを語るにあたってどのようにすべきかを改めて示します。**15 あなたは、これらのことを十分な権威をもって語り、勧め、戒めなさい。だれにも軽んじられてはいけません。**この講壇からの説教、教室での教え、そして教会として共に集うときも、それぞれがこの町へと遣わされていくときも、私たちの生き方そのものが、この福音の教理を語り続けるものであるべきです。これは、そのように生きることへの私たちへの挑戦であると同時に、教会の教えがこれらの偉大な真理から決して離れることのないよう守り続ける必要があることをも示しています。祈りましょう。

2nd Mark of a Healthy Church – Gospel Doctrine Titus 2:1-15

健康な教会の2つ目の印(マーク)：福音の教理

Turn in your Bibles to Titus 2:1-15. Today, we will have the second message in our sometimes monthly series covering the 9 Marks of a healthy church. Once again, these principles are coming from this book, “What is a Healthy Church” which is available on our book loan shelves and is being translated into Japanese. The goal of these messages is to be a healthy church that is defined as “... a congregation that increasingly reflects God’s character as his character has been revealed in his word.” In the first sermon, I mentioned that there are two core principles that the other 7 really come from. The first was Expository Preaching. The second core mark of healthy church and the one we will cover today is “Gospel Doctrine.” In order to see what this mark is all about we will again go to one passage of Scripture. Today we will look at Titus 2:1-15, and see the reason that gospel doctrine is of primary importance to the health of the local church.

Chapter 2 of Titus begins with these words of verse 1. **2 But as for you, teach what accords with sound doctrine.** Titus was a young pastor that Paul was mentoring. Titus had accompanied Paul to the island of Crete, and Paul left him there to lead the young church that had been started on that island. New believers had been baptized and as should be normal in missions to unreached people, those new believers formed a church or perhaps several churches. As the letter to Titus opens in chapter 1, Paul lays out what he should look for in Elders for the church. Then he talks about why this is so important, because there are false teachers even at this early point in the church’s history that could mislead new believers. So chapter 2 begins with telling us how you protect the church from this false teaching. Paul is concerned with the health of this young church, and **the first protection for this church’s health is the teaching of sound doctrine.** Right at the top of Paul’s list for protecting this church is selecting the right leaders who will teach the right doctrine. Doctrine is the teaching of the church. It is everything we believe about the God that we see in the Bible, and is the teaching we derive about God and the universe from the Bible. The core of the gospel has already been preached and believed, but believing the gospel and being baptized is only the beginning of the journey with Christ. The Gospel has implications for life so preaching gospel doctrine does not end at salvation. So, Paul tells Titus as a clear guideline for pastoring this church that his teaching should be centered on “sound doctrine.” This “sound doctrine” is clearly contrasted with the teaching of the false teachers in chapter 1 of Titus. And in this case we actually know some of the substance of the false teaching. **Titus 1:10 says, ¹⁰For there are many who are insubordinate, empty talkers and deceivers, especially those of the circumcision party. ¹¹They must be silenced, since they are upsetting whole families by teaching for shameful gain what they ought not to teach.** At least partially the false teaching was that of the judaizers, the same false teaching that the book of Hebrews is written to combat. These were men coming in and teaching that to be a Christian you had to follow Old Testament law. Once again, showing us that false teaching can sometimes even come from those using the Bible to teach the errors.

Before getting to an actual description of what Gospel doctrine is, though, Paul moves first to showing why this is important to our lives. There are plenty of Christians that believe any discussion of teaching of doctrine is boring and impractical. But in fact the teaching of doctrine is what determines not just what we believe, but how we live. **The church members live out the implication of Gospel Doctrine.** Read verses 2-10 where

it describes this. ² Older men are to be sober-minded, dignified, self-controlled, sound in faith, in love, and in steadfastness. ³ Older women likewise are to be reverent in behavior, not slanderers or slaves to much wine. They are to teach what is good, ⁴ and so train the young women to love their husbands and children, ⁵ to be self-controlled, pure, working at home, kind, and submissive to their own husbands, that the word of God may not be reviled. ⁶ Likewise, urge the younger men to be self-controlled. ⁷ Show yourself in all respects to be a model of good works, and in your teaching show integrity, dignity, ⁸ and sound speech that cannot be condemned, so that an opponent may be put to shame, having nothing evil to say about us. ⁹ Bondservants^[b] are to be submissive to their own masters in everything; they are to be well-pleasing, not argumentative, ¹⁰ not pilfering, but showing all good faith, so that in everything they may adorn the doctrine of God our Savior. Before Paul tells us exactly which doctrines we are supposed to teach and defend, he tells us why this important. Like this entire passage, it is connected back to the first chapter by the last verse of **Titus 1, verse 16, They profess to know God, but they deny him by their works. They are detestable, disobedient, unfit for any good work.** Remember this a description of those who teach and believe false doctrine. Their beliefs are reflected in how they live their lives. Ultimately, they are “**unfit for any good work.**”

But true gospel doctrine has a different result. In every demographic in the church, the commitment to the truth leads to a different result that reflects real Christlikeness. Let's just summarize what we see here about the work and the lifestyles that each group lives out. Older men demonstrate a serious minded wisdom that demonstrates a knowledge of the faith in Christ they confess. They do this with a love and commitment or steadfastness to others in the church rather than the self-centeredness that can sometimes happen as we men get older. Gospel doctrine affects older women by causing them to be “reverent in behavior.” This means that they act in a way that is appropriate for a person who is regarded as holy. With older women, Paul actually spends 3 verses describing their actions, showing how important their role was in the early church. So many of you ladies are raising your sons and daughters to be godly men and women, even in the absence of a Christian husband. And there are many of us who can remember Godly grandmothers who influenced us to follow Christ. For me, my mother's devotional life at the kitchen table in the early morning with her Bible open made a huge impact on me at a young age. A wife and mother who manages her home and loves her husband and children well should never feel like you are not contributing to your family. My ministry as a pastor is not possible without Beth's love and support in our home. And while each woman is different and has different roles and responsibilities, you are fulfilling God's purpose for your life in your home and in your submission to your husband, just as much as any job you may have. Of course, there are many other roles you can have as well in the workplace and in the church, but God has given you a unique role in your home that is different than your husband. In the church, there is an expectation that older women should be teaching and helping younger women to grow in their faith. Of course Elders are responsible to teach the entire church, but older spiritually mature women have a special place in the teaching of other women.

Then Paul speaks specifically to young men, and it seems that Paul may be including Titus in this group in verse 6 “**younger men to be self-controlled. ⁷ Show yourself in all respects to be a model of good works...**” Then he talks about their teaching, and it likely is talking about teaching the Scripture in the end of verse 7 and 8. “**...in your**

teaching show integrity, dignity, ⁸ and sound speech that cannot be condemned, so that an opponent may be put to shame...” There are so many young men, even in ministry that are arrogant and do not display the dignity of the ministry of the Word of God that pastoral ministry needs. The way they say things, the lack of self-control in their words leads to places where their lives can be condemned and they can be attacked by enemies, not for the gospel but for their poor choice of language. So young men are warned to show self-control. But Paul goes even further, what about those whose life situation is difficult or even not ideal or unwanted. That is who he addresses with the final group, “**bondservants.**” The word used here is also the word for slave although we don’t always translate the word slave in English because of connotations of American and European types of slavery which was different from that practiced in the Roman empire. While slavery may not have been quite as brutal as other forms of slavery practiced in history, the fact remains it was not a situation you could leave except under very specific conditions. You were responsible to provide service and obedience to a master who may or may not have had your best interest in mind. And yet these slaves or bondservants were still told **to be submissive, ... pleasing, and not argumentative.** They were also told not to pilfer or steal from their master. So even in your employment, including the most difficult employment situation, the teaching of the Gospel makes a difference to how we live it out.

But beyond the actual descriptions of how true gospel doctrine changes how we live, we need the notice why this is important. The ultimate goal is not just a different way of living, it is actually the increase of the gospel itself. Look at the three purpose statements that show up in verses 2-10, Why does it matter how older men and women act? In verse 5 it says, **that the word of God may not be reviled.** And why does it matter how younger men act? As verse 8 says, so opponents of the gospel have... **nothing evil to say about us.** And why does it matter how bondservants live out their faith? Verse 10, **so that in everything they may adorn the doctrine of God our Savior.** How we live can give an opening for the gospel. It allows the Word of God to be well thought of. It is interesting that even here in Japan I have heard of several situations where people did not believe the gospel but appreciated the Bible’s message enough to respect Christianity. And it is not just the Bible, but Christians ourselves that get opportunities to be heard, because they respect our lives. They can say no evil about us. And finally, it makes the gospel beautiful. This message that Jesus died for sinful humanity to reconcile us to our Creator is already the most beautiful message in the world, but how we live our lives draws people to the beauty of that message. Does the way we live our lives make others want to see know what it is that makes our lives different from the world around us? That is the Gospel doctrine of God our Savior that we want to share with them.

And after sharing how that message changes our lives, the apostle Paul now reminds Titus what that message is. **This is the gospel doctrine that the church protects and proclaims.** Look at verses 11-14. **¹¹ For the grace of God has appeared, bringing salvation for all people, ¹² training us to renounce ungodliness and worldly passions, and to live self-controlled, upright, and godly lives in the present age, ¹³ waiting for our blessed hope, the appearing of the glory of our great God and Savior Jesus Christ, ¹⁴ who gave himself for us to redeem us from all lawlessness and to purify for himself a people for his own possession who are zealous for good works.** In *What Is a Healthy Church?* Mark Dever identifies five truths or doctrines about God that form the

core gospel doctrine unfolded in the Bible. These truths support everything else the Bible teaches. They define both the God we worship and the message we proclaim. And in these words to Titus, we see all five. First, *the God of the Bible is the Creator*. From the opening words of [Genesis 1:1](#), “In the beginning, God created the Heavens and the earth,” Scripture declares that God is the source of all things. Here in Titus, this means that he is the source of salvation, for “[the grace of God has appeared, bringing salvation.](#)” We could not save ourselves, so the Creator made a way to rescue sinners and restore them to himself. Second, *the God of the Bible is holy*. Why do we need salvation at all? Because God is perfectly holy, while humanity rebelled against him in Adam and continues in sin. As [Romans 3:23](#) says, [all \[of us\] have sinned and fall short of the glory of God](#). God defines what is right, and when we go against him, we sin. Therefore we need grace that trains or makes it possible for us “[to renounce ungodliness and worldly passions,](#)” so that sinners may be made pure before a holy God. Third, *the God of the Bible is faithful*. We were unfaithful to our Creator, but God remained committed to the people he made. From Genesis onward, he gave promises and covenants declaring that he would redeem sinners. In Christ, God keeps every promise, for “[Jesus Christ... gave himself for us to redeem us from all lawlessness and to purify for himself a people.](#)” God’s faithfulness is fully displayed in Jesus Christ. Fourth, *the God of the Bible is loving*. Titus says we now live “[waiting for our blessed hope, the appearing of the glory of our great God and Savior Jesus Christ.](#)” We did not deserve salvation, yet God poured out his grace through Christ to save us and give us hope for this life and the next. Such grace is the love of God toward sinners. Fifth, *the God of the Bible is sovereign*. By his own power and purpose, God accomplished salvation. Christ came “[to purify for himself a people for his own possession who are zealous for good works.](#)” God did this, not us. We are the recipients of his grace, now living changed lives that display the power of the gospel as described in verses 2-10.

Creator, holy, faithful loving and sovereign and this all comes together in Jesus Christ. Where a holy God loves you so much that he chose you by his sovereign choice to save you and to give you a new life. He saves you by sending Jesus Christ, God the Son himself to die in your place on a cross while bearing your sin and penalty for it. Old Sins forgiven New life begun. A personal relationship with your God your creator now and forever. This is the gospel doctrine that every church that is healthy proclaims. We don’t shrink back from this message, but declare it boldly and with authority with our words and with our lives so that people take notice and are challenged with the truth. So verse 15 ends really in the same place verse 1 began, [But as for you, teach what accords with sound doctrine.](#) We now read Paul’s challenge to Titus that in his teaching of sound doctrine he is to... ¹⁵ [Declare these things; exhort and rebuke with all authority. Let no one disregard you.](#) The preaching from this pulpit, the teaching in our classrooms and the lives we live both gathered as the body and scattered across our city as the church should proclaim this gospel doctrine. This is both a challenge to us to live in this way, and to protect the church’s teaching to never depart from these great truths. Let’s pray.